

# IR

Integrated Resort

## 日本はマカオに次ぐ世界第2位の ゲーミング市場規模になる

世界150カ国以上、約20万人のプロフェッショナルからなる国際的会計事務所デロイト。その中で、ホテルやレジャー、カジノに関するグローバルリーダーを務めるAdam Weissenberg氏とUSリーダーのVal Bauduin氏。二人にIR誘致の期待高まる日本をどう見ているのか、インタビューを行なった。

聞き手・本誌 岩本 大輝 構成 長谷川 耕平

### 日本版IRの投資規模は約50億ドル

□2020年に東京五輪が開催されます。そのタイミングで日本にカジノ施設もオープンしようとしています。ずばり東京にカジノを含む統合型リゾートができた場合の投資規模はどのくらいになると予測していますか。

**アダム** 東京五輪の誘致に成功し、東京にカジノを誘致する実現性は高まっていると感じています。そう感じているのは私だけでなく、海外のカジノオペレーターも同じです。彼らは皆、日本のカジノマーケットに参入したいと思っています。なぜなら、日本のマーケット、とりわけ東京のマーケットはポテンシャルが高いと評価しているからです。

投資金額に関する最近の事例を見ると、平均で約10億ドルでした。マ

カオは20~30億ドルです。巨額に見えますが、シンガポールのカジノは約60億ドルの収益があります。10億ドルの投資ならば、2~3年で回収できます。世界各国を見ても、約30億ドルの売り上げがあることから、10億ドルを投資しても十分採算があると見られています。

**バル** 投資額はカジノマーケットのポテンシャルに比例するでしょう。ある調査によると、日本はマカオに次ぐ第2位のゲーミング市場規模になると予測されています。アダムが言った通り、シンガポールは約60億ドル、マカオは約380億ドル、ラスベガスは約70億ドルの収益があります。日本を試算すると収益は150億~160億ドルになると言われています。これらの都市に共通するのは、国際的な都市であり、フライトが多く、そして観光地

であること。日本は韓国や中国に近いので、IRができれば観光客の入流が非常に期待できます。そのため、日本の投資規模は50億ドルを超える可能性も秘めています。

□日本にIRができた際の経済波及効果は。

**アダム** IRの見方次第で経済波及効果は変わってきます。一つ目の見方として、直接的な見方があります。つまり、建設に関する効果です。東京ならば、前述のとおり建設費用や資材などで約50億ドルは見込めます。二つ目の見方として、雇用の創出による効果です。また、雇用者の通勤やユニフォーム代などの2次効果も期待できます。三つ目の見方として、インバウンド数の増加=観光収入です。いずれにしても、IRができるこ



Deloitte  
Travel, Hospitality and Leisure Global leader

Adam Weissenberg氏

(アダム・ワイゼンバーグ)

とによる経済波及効果は大きいと思われる。

**バル** 一つ一つの要素を集めて金額をはじくため、試算は難しいです。当社は各国の政府からの要請で経済波及効果のリサーチも行なっていますので、日本政府から要請があれば行ないます(笑)。アメリカ東部のように過剰供給のため失敗した例もありますが、アジアはまだ需要が供給



Deloitte  
Travel, Hospitality and Leisure U.S. Hospitality Leader

Val Bauduin氏

(バル・ボードウィン)

を上回っています。フィリピンが巨大カジノリゾートの開発に注力しているように、アジア市場はまだまだ発展できると思います。ただし、IRをどう活用するかは国家戦略です。マカオにゲーミングで訪れる人の滞在時間は約23時間、一方でラスベガスは3日以上滞在が期待できるというデータがあります。ラスベガスのように滞在日数を増やすことができれば、ホテルやレストランはよい効果が得ら

れます。IRはそういった役割も担うのです。

#### シンガポール政府は IRを観光の起点に活用

□日本がIRのモデルとするシンガポールは、カジノ誘致の前後で観光客数に大きな変化がありました。日本がシンガポールのインバウンド数を超えるための課題は何でしょうか。



左から順にバル・ボードウィン氏、アダム・ワイゼンバーク氏

**アダム** インバウンド数を増やすには、カジノ単体ではなく、それ以外のものも含めた形で考えないといけません。今まで日本の経済状況が、観光客数にも影響を与えていたと私は見えています。日本は海外旅行者に比べ、国内旅行者の方が圧倒的に多いからです。課題として挙がるのは、宿泊代です。日本はまだ宿泊代が高いと感じます。しかし近年、宿泊主体型ホテルの登場により、客室数は増え、フルサービス型のホテルに関しては2年前に比べて割安になった気がします。日本の宿泊施設は快適で、クールで、レストランも充実していることから、宿泊代がカギだと思っています。

**バル** フライトも重要でしょうね。シンガポールを例にすると、シンガポールにあるチャンギ国際空港は東南アジアで最も重要なハブ空港の一つです。100を超えるエアラインが世界60カ国、200以上の都市と定期フラ

イトを運行しています。私の母はベトナムに住んでいますが、ベトナムとシンガポール間の運賃は100ドル。この安さがシンガポールのインバウンド数に影響を与えています。

□たしかにフライトは重要ですね。シンガポールはIR誘致とともにLCCが増えたのでしょうか。

**バル** シンガポールは元々LCCが先行していました。その上でIRを誘致し、国家的な観光戦略に取り組みました。シンガポール政府にとってIRは観光の起点です。IRをつくることで、シンガポールを地図に浮かび上がらせ、さまざまな施策を仕掛けたのです。シンガポールを見ると、IRとLCCの二つは共存しています。一つ一つの要素を大切に、掛け合わせてインバウンドに取り組んでいます。

**アダム** LCCはとても重要です。ラスベガスは3年前に人件費の削減などにより、フライトの軒数を30%削減しました。その結果、コンベンションに大きな打撃を与えました。

世界最大規模のゲーミング市場を持つマカオは、中国南部の富裕層をメインターゲットに据えています。日本も中国人をターゲットとするならば、フライトは重要です。LCCが増えることで、料金だけでなく、他国からのフライト数が増えインバウンド数に影響を与えるでしょう。

□話を変えますが、日本はIR誘致の

際に労働力不足が懸念されます。また、東日本大震災の影響などもあり、建築費用が高騰しています。この問題に対してはどうお考えですか。

**バル** マカオやシンガポールは当初からIR建設に関する労働力不足がありました。インフラ整備も発展途上で、外から労働者を雇わなければなりませんでした。その点、日本はすでにインフラ整備が進んでいます。IR誘致後の労働力不足は懸念されているとはいえ、断然アドバンテージがあります。

**アダム** カジノ施設に関して言うならば、ゲーミング市場がどうなるかでこれらの問題の重要度が変わってきます。ゲーミングによる集客が期待できると考えれば、安心して建設するでしょう。コストと収益の見通しをよく考えた上で建設すれば大丈夫です。労働力不足に関しては、バル氏と同じ考えです。雇用の促進を考えてのIR誘致だと思いますので、それほど深刻に考えなくてもよいと思います。

□本日はありがとうございました。



フライト数がコンベンション数にも大きな影響を与える